

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 開かれた学校づくり

事業名 **地域一体型学校の顔づくり事業**

[0609]

部名	教育部	事業開始年度	平成13年度	実施計画事業認定	対象
課名	総務課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 市内市立小・中学校
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 学校が家庭・地域と連携を取りながら、特色(顔)のある学校、開かれた学校づくりを進め、江別市全体の教育力が向上する。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 各学校が地域の特性などを活かして、主体的に特色ある学校づくりに向けて、地域一体型学校の顔づくり事業を実施し、その事業に要する経費の一部を支援する。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	市内市立小・中学校数	校	29	29	28	28
対象指標2						
活動指標1	事業実践項目数	項目	45	43	40	40
活動指標2						
成果指標1	地域住民等の事業への参加人数	人	4,857	5,003	6,040	5,003
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	3,074	3,192	3,079	3,252
正職員人件費 (B)		千円	1,660	1,612	1,605	1,619
総事業費 (A) + (B)		千円	4,734	4,804	4,684	4,871

費用内訳	
23年度	報償費 424千円、需用費 2,124千円、委託料 135千円、使用料及び賃借料 93千円、備品購入費 304千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始
背景

事業を
取り巻く
環境変化

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

この事業は、児童・生徒が自分の学校に魅力を抱き、父母や地域から信頼を得て親しまれ、学校が地域の拠点として学校運営や教育活動が推進されることを目的としており、教育力の向上を目指すものであることから、妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

それぞれの地域の特性やその歴史から地域に存する学校が、その特色を活かし高めることで地域やPTA、学校が一体となって教育活動の活性化、活発化が図られる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

16年度以降学校提案型に変更し、教職員自らが考え実施する事業になったため、より身近な学校の実態に合わせた事業として実施されているほか、年数の経過とともに事業（顔）として定着してきている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

各学校が自校の特色（顔）に特化して事業に取り組むことで、学校の顔が鮮明となる。このことにより児童・生徒や教職員の取組む意欲、さらには父母や地域住民の理解や信頼が増し、学校に対する協力関係も強化される。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

各学校の実践する事業の取組みに、地域やPTAに密着したものを取り入れ、積極的に関わってもらうことで、コスト削減の可能性はある。